

第2回袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇話会 会議録要旨

1 開催日時 平成27年10月8日（木） 午後2時開会

2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

3 出席委員

委員	神崎 保	委員	内山 真琴
委員	片倉 憲太郎	委員	立川 久雄
委員	和田 操	委員	長田 秀実
委員	田中 直子	委員	永野 康平
委員	高橋 清	委員	鈴木 英一
委員	寺地 直人	委員	境屋邦夫(代理)
委員	佐久間 良雄	委員	石橋 芳継
委員	小俣 好文	委員	中川 喜一郎
委員	佐久間 正博	委員	山口 修
委員	石井 智広	委員	池上 雪男
委員	佐藤 弘之	委員	三浦 邦夫
委員	奥野 栄子	委員	松村 陽一
委員	鶴岡 慶一	委員	安西 聖依
委員	山田 満	委員	石井 和夫

4 出席職員

企画財政部長	長谷川 美喜男	企画課主査	須藤 浩二
企画財政部次長	分目 浩	企画課主査	高品 誠
企画課副参事	千田 和也		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	2人

6 議 事

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議題

①袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略アンケート調査結果について

②袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体構成について

③袖ヶ浦市人口ビジョン（素案）について

④袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について

・骨子案について

・検討中の事業について

⑤その他

（４）閉会

各議題ごとに事務局より資料に基づき説明し、委員より意見等を伺った。意見は、以下のとおり。

議題① 袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略アンケート調査結果について

特になし

議題② 袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体構成について

Q 国が示している人口維持のための出生率は2.08ではなかったか。

A 国でも厚生労働省においては、2.08を使っている。今回、国の地方創生の総合戦略、長期ビジョンにおいては、2.07を使っているので、本市においても地方創生においては、2.07で国と合わせることとしたい。

Q 合計特殊出生率や希望出生率があるが、ここではこれを使うということがあるのか。

A 合計特殊出生率は人口統計上の指標であり、毎年、国が出している数字である。希望出生率は市民へのアンケート調査において、既婚者の予定の子ども数や未婚者の理想とする子ども数などから、本市における希望出生率1.74を算出した。国においては、国民の希望出生率を1.8としている。

Q K P I とは、どういう指標なのか。

A 今回、総合戦略の取組について、PDCAサイクルを回していくために、定量的な指標を示していくということで、施策ごとに設定していく。

議題③ 袖ケ浦市人口ビジョン（素案）について

- Q シミュレーション6ということで、ここで仮定されている移動率のプラスを 1.2 倍、マイナスを 0.8 倍ということだが、今までの経過から言うと、非常に難しいハードルなのか、そうでもないのか。これから、そのための施策を行うということではあるが、国の希望出生率 1.8 という数字は難しいという話もあるので、ある程度の見通しがあるのかどうか。
- A 出生率については、国と同様に希望出生率を目標に、まずはこれを目指していくこととしている。
- シミュレーション6の見通しということだが、今回いろいろとシミュレーションを行っている。移動率について、プラスを 1.5 倍、マイナスをゼロとしているシミュレーションもあるが、現実として現在マイナスとなっている若年層の移動率をゼロにするのは袖ケ浦市においては難しいということで、シミュレーション6を採用している。

議題④ 袖ケ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について

- Q 人口ビジョンにおいて確認だが、最終的な人口予測は。
- A 現在の素案としてまとめたのは、資料3の54ページの推計結果であり、2040年で60,497人、2060年で55,541人としている。
- Q この推計結果の出生率は、2040年までに2.07まで上昇すると仮定しているが、この2.07という数字は、いつごろの数字と同じなのか。昔は高かったと思うので。
- A 資料がないので、正確なことは回答できないが、本市ということではなく、日本全体ということであれば、昭和の時代では2.07は超えていたと思う。
- Q 2.07まで上げる施策の財源はどれくらい掛かるのか。
- A 事業費については、5年間でトータルとしての積み上げは行っていない。
- O 子どもが生まれれば、必ず育児の問題が出てくる。アンケート結果を見ても経済的な援助や支援ということが上位に来ているので、財源が伴うということがあると思う。ある程度全体計画の中で考えていく必要があると思う。
- A 私どもが一番悩んでいるのは、アンケートですと、経済的な支援をお願いしたいということである。現在も児童手当として国、市町村が一緒に中学生までの子どもに手当を出している。ただ、そこにまた金銭的な事を行っていくのが良いのかどうか、そうではなく子育て関係でお金が掛

かるということになると、多子世帯の第二子、第三子の保育料について軽減していくのか、そういうことも考えなければならないと思っている。

- A 先ほどの合計特殊出生率について、袖ヶ浦市では、昭和58年ごろでは1.87となっている。国で言うと、1970年代は2.0を超えている。
- O そこまで戻すには相当大変で、相当な努力が必要だと思う。今の出生率1.45の時、育児関係などの支援などに、市の財源としてどれくらい負担しているのか、2.07になったらその財源がどうなるのかわからないが、結構嵩んでくると思う。
- O 人口増を図るには、定住する人を如何に呼び込むかということだと思う。今、県内で人口が増えている場所は、若い世代が移り住みやすい環境づくりとアクセスの関係である。そういうものを一回で整備をするのではなく、段階ごとに整備をして、それを見た若い人が都心から移住する、そういう政策を少しずつ、切れ間なく行っていくことが必要だと思う。
- O 今、袖ヶ浦市自体にアピールするものが無い。隣の木更津市はどこへ行っても木更津と言うとすぐに通じるが、袖ヶ浦市と言うとなかなか理解してもらえない。木更津の隣だと言うと、ああそうですか、となる。アクアラインによるアクセス性ということが一つあるので、そういう点をPRしていったって、どれだけ都心に近いとか、或いは羽田空港や成田空港に近いとか、そういう公共的なもの、それと教育関係についても非常に充実をしている。今は、やっぱり一般的にはテレビの影響は強いと思う。そういうところから目に入って来ないと、なかなか一般的には世間に通じていかないと感じる。
- O 雇用問題について、企業は海外での生産活動を増やしている中で、本当に地元で働ける職場づくりができるのか、ということがある。椎の森工業団地の整備も行っているが、実際に人口が増えるような大きな募集を行っているように見えていない。だから、まず定住人口を増やしていく。それから、段階的に計画の中の事業を進めていくようなことを考えないといけない。特徴が無いということは世間に印象が薄い。袖ヶ浦は環境とアクセスは良いと思う。そういうもののPR活動を行っていく必要がある。
- O 調整区域は依然として厳しい状況で、空き家も増えているということであれば、そういうことも見直しをしていかなければいけないと思う。雑草が生えっぱなしの空き家も多いので、そういうことも見直しをして、若い世代が低賃金でも入って来られるような、そういうことを売り物にしていかないと、子どもは増えないと思う。生産年齢の方が入って来な

いと人口は増えていかないと思う。そういう面を検討してもらえればと思う。

Q まち・ひと・しごと創生総合戦略は5年間の計画となるが、5年間で終了ということか。人口は40年後まで推計しており、ロングスパンの中の第1スパンとして、この5年を取り組んでいくのか、5年だけの取組なのか。

A まず、5年のスパンで取り組んでいくということである。今後5年が過ぎた後に国の総合戦略の見直しも行うと思うので、そういうことを踏まえながら各市町村も対応していくことになろうと思う。ただ、それについて国もはっきりと、いつということは言っていない。今、5年間でこの施策でやろうということもあるが、KPIという定量的な指標を設定するので、これから行っていく取組も一年間やってみて効果が出ているか、毎年評価していく。目標に対して効果が上がって行かないということであれば、やり方が悪いのか、そもそも施策自体が悪いのか、ということについては毎年見直しをしながら5年間の中でも見直しをしていくということで戦略を推進していく。

Q これから総合戦略をまとめるわけだが、どこが実行主体で、誰が承認していくのか。たまたま市長の改選期ということで、新市長には総合戦略について責任を持って遂行しますということを、言っていないか、この会議で議論したことが役に立たないし、議会としても袖ヶ浦の発展に向けてこの戦略を支持し、予算等の必要があれば進めますという、約束をいただかないと実行性が薄いかと思うが、そういう予定はどうなっているか。

A この戦略について、市民の皆様の意見を伺うため、市民説明会や懇話会を行っている。議会に対しても、9月議会の最終日に人口ビジョンと総合戦略の案を全員協議会で説明したところであり、議員皆様からも意見を伺いたいということで進めている。今後、本日いただいた意見等も踏まえながら、11月下旬には案をつくり、パブリックコメントを行いながら、来年2月ころに策定していくことになる。実際の事業については、それぞれ所管の部署が、まず28年度の予算に計上し、それが予算ということで議案として議会に上程していく。その予算が通ればそれを執行していくことになる。そういう意味で、計画に上げた事業について、それぞれの年度で予算を計上しながら議会の承認を得て進めていくことになる。

O 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」ということで、名前が非常に長いので、成案化したらもう少し短い言葉でまとめていくことが必要だと思

- う。それを高校生など若い子たちに募集しても良いし、みんなの意識がまとまるような短いネーミングを付けたら良いと思う。
- A 既に全国でも策定している団体があるが、まち・ひと・しごと創生総合戦略ということを書きながら、その下にサブタイトルみたいなことで書いている市町村もある。また、この戦略自体の名前を変えている市町村もあるので、最終的な成案になった時には考えさせていただきたい。
- O 基本目標4の施策「防災力」と「ふれあいと支え合い」ということで気になったことだが、人口についてはどのように想定しても減ることはわかっている。私は、人口増は望めない状況だと思う。そこで悲観的にならずに、これからお年寄りが増えることは確かだから、高齢者が安心して、満足感を持って、幸福感を持って生活できるようなまちづくりが必要ではないかと思う。自治会自体も高齢化しており、役員のなり手もない状況である。自治会のあり方も今後検討しなければいけないと思うし、それから核家族化しているので自治会に入っていない人も多い。30年前には、あれやってくれ、これやってくれ、という要望もいっぱいあったが、30年間でそれがほとんど解決されたわけである。今まで市にお願いして、それで住みよい街になっていると思うが、さらにこれから高齢者が増えてくるので、悲観論にならないようなまちづくりをするにはどうしたら良いかということを考えていく必要があると思う。「共助」とあるが、これが最近薄れてきていると思う。隣近所であいさつもしない人もいるが、それでも成り立っている。だが、隣近所の付き合いは必要だと思う。最近は、「自助・近所・公助」というように変わってきているとも聞く。それにはコミュニケーションが必要である。高齢者が袖ヶ浦に住んで良かったとなるようなまちづくりが必要だと思う。例えばインフラで言うと、市街地で2車線取れない道路があるが、そういう所は思い切って1車線の一方通行にして、空いた部分をお年寄りがゆっくり歩けるような道路づくりをするとか、そういうまちづくりも必要かと思う。
- O 袖ヶ浦市は、工業関係の方や農業関係の方などがおり、生活環境が全く異なるので、共生が必要だと感じている。
- 袖ヶ浦市の知名度が低いということであるが、そのひとつのこととして、今年の花火大会が見送られたところであるが、こういうことに関しても若い人はお祭り騒ぎが好きで人が集まるわけである。氣志團万博もあったが、何万人もの若者が集まる。この袖ヶ浦市が、こういうことで知名度が上がるわけである。それと同じように、花火大会でも年に一回、故郷へ来て花火大会を見たい、そういう若者も多いと思う。千葉県内の花火大会の予定を見ても袖ヶ浦の名前が無い。市から公表された花火の数

も2千発とかであり、木更津は2万発とか、数が全く違う。そういうところからも、魅力的なことが見受けられない。実際に花火大会に行ってみて、感じているが、そういう一つ一つの行事についても、もっと若者が興味を引くようなことが必要ではないかと思う。主催者側として参加し、そういうことを感じている。若者たちが魅力を感じるようなものが、なされてないという感じを持っているので、ぜひこれからは、袖ヶ浦市でこんなことをやるんだという、マスコミで取り上げてもらえるようなことが、あったら良いと思う。

- 若い人をもっと参加させるようなことを考えた方が良い。プロモーションビデオにしても、行政だけで作るのではなく、高校生・中学生の感性をもっと取り込むような形で作った方が良い。識者が集まった中では間違ったことは無いが、感性という点では若い人に負けると思うので、その辺をうまく取り込んで、イベントへの参加だけでなく、企画へ参加させるようなことを考えたら良いと思う。
- 先ほど話の中でもあったが、海外に向けて出ていく企業も確かにある。これをコントロールすることは難しいことであるが、企業振興条例等は工場だけでなく、商業施設などいろいろな産業も含まれており、設備投資への支援を行ってもらっている。このような支援をしながら外に出て行かないようにしていることも、アピールする場をもっと広げていく必要があると思う。工場連絡会では周知してもらっているが、その他の産業にはどう周知しているのかが気にかかる。
- 袖ヶ浦高校の生徒のアンケートを非常に興味深く拝見させてもらった。住み続けたい理由で、「生まれ育った場所だから」ということで、非常にうれしい意見だと思う。ただ一方、移り住みたいというところでは、買い物ができる環境が充実していない、レジャーや遊ぶ場所が少ないなど、この地域で行動している人たちがそういう風に感じていると思う。まちづくりをする中で、買い物がしやすい、学校帰りにちょっと遊んで帰りたい、友達と何か飲みながら話をする場所も無いわけで、そういうところが寂しいということだと思う。これからを担う方々の意見なので、参考にしていただきたいと思います。
- 婚活について、隣の市で第2回目のイベントを開催しようとしている。企業に勤務している男性と市内在住の女性との婚活イベントということである。その中でちょっと問題になっていることが、開催場所の問題である。「夢が無い場所に人は呼べない」というプロの意見だが、要は足が向くような場所を選んでいただければと思う。折角こういう活動をする

のであれば、もう少し場所も考えてもらえればと思う。企業へも話をいただければ、同じように根付く活動として、役に立てればと思う。

- 企業誘致等も進めていくということであるが、働く女性も増えてきているので、女性の雇用ということもしっかりと考えた方が良い。また、働き続けるには子育て環境も重要で、充実していれば家を購入する際にも選んでもらえ、住んでくれる人も増えてくると思う。
- 農業の関係で、担い手育成・支援事業ということであげられているが、新規就農者という文言が入っていないので、加えてもらいたい。認定農業者の育成ということも必要だが、その大本となるのは新規就農者なので、家業を継ぐ就農者の他にも新規に受け入れる体制も整備をするということで、新規就農支援ということを入れていただきたい。
- 袖校生のアンケート結果にもあったとおり、農業をやっても良いという人は少ないが、条件によってはやるということである。その中で農業は儲からない、辛いというイメージが結構あると思う。農業が儲からないという中で、地産地消という言葉が出てきているが、実際に袖ヶ浦市内でも行われているかというのと、ゆりの里など一部あるが、まだまだ足りない。地産地消を支援するような、消費者と生産者を繋げるようなイベントの場を設けてもらえるようなことを追加してもらいたい。
- 高付加価値農業推進事業の事業概要について、「ちばエコ農産物の普及拡大を推進」としているが、「ちばエコ農産物」は正直言って当たり前で、それが高付加価値に繋がるかと言ったら、なかなか難しいと思う。「ちばエコ農産物」を利用した特産品で、例えばエコタスのようなブランド化を進める。それで高付加価値を目指していくような標記にして、ブランド化ということも入れてもらいたいと思う。それと、6次産業化・農家レストラン・体験農園というのが、本当は高付加価値化に繋がってくる内容なので、うまくまとめてもらえればと思う。
- 今、蔵波地区でかなり造成され、家が建っているが売れているのか。作れば売れるのであれば、人が増えると思う。
- 残土条例をもう一度見直してほしい。住みやすいまちを作ることであれば、考えてもらいたい。
- 袖ヶ浦高校のアンケート結果の「袖ヶ浦市のイメージ」で、子育て環境が充実しているという回答が、低くなっている。袖ヶ浦の子育て環境は、

近隣市と比較すると進んでいる。特別事業と言われるものも、ほとんどの施設が行っているということと、保育料自体が県下でも一番安い。そういうことを全く知らないということは、一般の方も同じではないかと思う。公立保育所5か所、私立3カ所、幼稚園も公立、私立で4ヶ所あり、全て100名以上の定員で、小規模保育も行っている。福祉施設も他市よりも多い。だから、まだまだ知名度とか、或いは福祉の中身がわからないというのが実態かと思うので、その辺もしっかりとPRをしていただきたいと思う。

○ 袖ヶ浦高校のアンケート結果で、買い物は木更津でする人が多い。それで、住みたいまちは買い物などが楽しめるというように、そういうところに若い人が集まるということである。ですから、若い人たちの志向が、ショッピングが楽しめるようなまち、となるので、そういうものを考えなければいけない。

○ 袖ヶ浦市は交通アクセスに恵まれていると思う。アクアラインや館山道、連絡道から圏央道と、これをもう少し活かして、定住化を図ってもらいたい。

Q バスターミナルについてだが、木更津市とどのような摺合せをしたのか興味がある。木更津でハブターミナルではないが、そのような形で整備をしていると思う。そこについてはどうか。

A 木更津市では、金田の現在のターミナルの隣に整備をしている。今後の予定を聞くと、今年度末には新しい総合バスターミナルがオープンすることである。バスバースも10バースということなので、かなりの広さのバスターミナルである。木更津市と袖ヶ浦市、こんなに近くでなぜできるのかと、私どもが当初木更津市から計画を聞いた時にはそのような話はあった。これも、都市間競争の一つになっているのかと思う。袖ヶ浦市については、16号沿いの立地である。7月には新宿便も増便するなど、袖ヶ浦市の優位性ということについては、しっかりとやっていきたいと考えている。現在、周りの駐車場経営者の方々とも袖ヶ浦バスターミナルの更なる利便性向上のために一緒になって取り組んで行こうということで協議を進めている。

Q 袖ヶ浦バスターミナルは、通勤者専用とか、マイカー専用のように感じられる。袖ヶ浦駅が新しくなった中で、停留所を設けて、30分間隔くらいで高速バスを停める計画は無いか。そういう方法を取れば、人は集まってくると思う。そういうことを入れてもらいたい。

A 今現在、袖ヶ浦駅に高速バスが乗り入れているのは、品川便の一部であ

る。これは長浦駅が始発で、袖ヶ浦駅を経由し、袖ヶ浦バスターミナルから品川駅という路線で、袖ヶ浦駅の南側に入っている。海側の駅前広場にもそういうことも想定してバスバースを設けている。バス事業者へも海側の話もしているが、利用者が分散するという懸念があるとしているが、今後も駅からの発着については、引き続き協議していきたいと考えている。

- 私の店は地産地消ということを掲げてやっているが、店を始めたころは大規模農家に相手にされなかった。最近ようやく協力していただけるようになったが、先ほどの意見でもあったが、農業を主体としたイベント、若しくは若い人たちが農業に参入したいと思えるようなイベントを企画してもらえると良いと思う。
- 週末は県外者で賑わうが、ドイツ村を含め県外者が来るということは、もう少し皆さんが連携をして、アピールをすれば、通過点ではなく目的地の一つとして袖ヶ浦をPRすることができるのではないかと思います。
- 資料5として検討中事業一覧があるが、こういう内容がなかなか私たちまで伝わって来ないので、こういうものをPRして、事業者それぞれにわかるようにしてもらいたい。
- 過去、臨海部へ企業が進出してきた時には、社宅を設けて、すごく人口が増えたと思う。企業へ就職するということであれば、地元の高校から枠を設けて就職する。或いは、久慈市と議会友好交流協定を結んでいるので、これだけの企業があるので、東北から就職の斡旋、またその斡旋の中からこちらへ来てもらえれば、結婚、出産と、人の増加、世帯の増加、出産による増加に繋がると思う。教育委員会でも北海道の中学生とソーラン交流を行っているので、踊りの素晴らしさだけではなく、メールの交換など、やがて大人になった時に、また袖ヶ浦へというようなことが考えられる。
- 袖ヶ浦の中にも魅力的なものはいっぱいある。去年は袖高生がテレビ番組に出ていたとか、知らない方もいると思いますが、若者の間ではそれが全国的にも有名になっている。また、ゴルフ場があったり、ドイツ村があったり、金田になるがアウトレットがあったりと、いろいろあるが全てがドア・トゥ・ドアになっている。車に乗って、家から出て、そこに着いて、そこからまた帰る、ということは袖ヶ浦の地に足を落とさないということで、もったいないと思っている。そこをうまく地に足を下ろしてもらうためのインフラ整備を行って行った方が良い。昔は、駅前か

ら商店があり、文房具屋があったり、本屋があったり、そこに寄りながら歩いていて、その頃の方が盛り上がっていたと感じている。今は、子どもたちが本を買ったり、文房具を買ったりするところが無いから、結局、木更津の大きな所に行ったりということで、人が流れてしまうと思う。駅を降りた時の明るいイメージを作った方が良い。そこから活気づいたところで、アクアラインバスのルートを、ゆりの里などのイベント会場へピストンできるような流れを考えた方が良い。

- 教育関係について、大学を作るのは大変なことかもしれないが、農業に関することや何か地元に関係するような専門学校などを作るとか、そうすれば東京に出て行く若者も、ここに残って専門的な勉強をしようかという発想も生まれるのではないかと思う。市営になるのか、民間になるのかはわからないが、教育環境の整備ということで、袖ヶ浦にこういう専門学校があるというように、そのような教育設備も作っていくと、袖ヶ浦に入って来る人も増え、活気が出てくると思う。
- アンケート結果をみると、私の経験ではなかなか得難いことが書かれている。何かというと、自由意見欄であり、この中には実際に経験してきた中での本音が書かれている。ここで貴重な意見をいただいているわけなので、これだと思うものは、ぜひ反映してもらえればと思う。

以上

(その他)

今後、今までいただいた意見等を踏まえて、庁内の推進本部において案を作成し、11月下旬からパブリックコメント手続を行う。最終的には、2月までに策定していく予定である。

(閉 会 午後5時00分)